

I 実践

1 本校の人権教育の活動目標

人権教育という広い視野をもち、豊かな心情と正しい理解や判断力を養い、差別や偏見をもたない生徒を育成する。

2 本校の人権教育の努力点

- (1) 相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意見を表現し、相互理解を深めていけるよう指導の工夫改善を図る。
- (2) 人権教育の目標と内容を検討し、それらを各教科・道徳・特別活動等のそれぞれの特質に応じて年間指導計画に位置づけ、教育活動全体を通して指導の充実に努める。
- (3) 豊かな心情や人権尊重の精神を育てる指導方法について校内で研修し、その推進体制の整備をはかり、教師の人権に対する理解と認識を深めるように努める。
- (4) 各教科を通して、我が国や外国の歴史・文化に対する理解を深め、指導の工夫に努める。

3 具体的な実践

(1) 朝のあいさつ運動，さわやかマナーアップキャンペーンの実施

学級単位の当番制で、毎週水曜日の朝にあいさつ運動を行っている。生徒会が中心となって計画を立て、あいさつで溢れる明るい学校を作ろうという考えのもと、全校で長期的に取り組む活動として始まった。当番にあたった学級は、通常より早く登校したり、部活動の朝練を早く切り上げたりと自ら考えて行動し、正門と北門、及び昇降口前に立ちあいさつ運動をしている。さわやかマナーアップキャンペーンは、日高学区市民自治会の方々の協力を得て、あいさつの活性化やマナーの向上のために行った。また、ボランティア委員会が中心となって、市青少年相談員、市役所女性青少年課、日高小児童の方々と小木津駅前であいさつ運動を市民の方々へ行った。



(2) 人権作文，人権ポスターへの応募

毎年夏休みの課題として人権作文と人権ポスターに取り組んでいる。日常生活や学校生活、道徳の時間などを通して、思いやりや他人を尊重することの大切さなどについて考えたことを、絵や作文に表すことで人権への理解を狙い取り組んだ。また、ピアサポーター委員会の活動として人権メッセージにも取り組み、人権感覚を高めている。

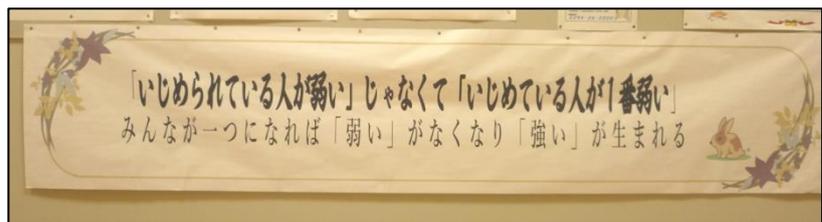
(3) いじめストップフォーラムの実施

12月16日にいじめストップフォーラムを学校全体で実施した。生徒は、いじめストップフォーラムを行うに際して、事前に各クラスで生徒一人一人が「いじめ撲滅標語」を考えて書き出し、学級ごとに「いじめ撲滅標語」を一つ選考した。このように多くの考えを知ることで人権意識を高めることができた。

当日は、ピアサポーター委員会による進行のもと、委員長の話、いじめに関する映像鑑賞、全校生徒の中から選ばれた「日高中学校いじめ撲滅標語」を提示し、いじめについて真剣に考える機会となった。

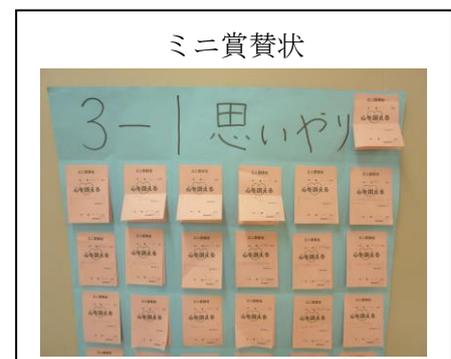
日高中学校いじめ撲滅宣言

「いじめられている人が弱い」じゃなくて「いじめている人が1番弱い」
みんなが一つになれば「弱い」がなくなり「強い」が生まれる



(4) 賞賛状

今年度からの日高中元気プランの一環として、生徒は家庭学習のノート一冊を終えたり、善いことをしたりすることで、学校長から直々に賞賛状をもらえるようになった。また、ボランティア委員会が中心となって、生徒同士でお互いを讃えあうミニ賞賛状の取り組みも行われている。



4 成果

あいさつ運動の取組では、日常生活でもあいさつを積極的にしよう、規律を守って生活しようとする生徒が増え、互いに注意する場面も見られるようになった。

また、いじめストップフォーラムにおいては、いじめをしている人やされている人の気持ちを改めて考えるよい機会となり、最近増えている SNS 上でのトラブルを取り上げるなど身近なものにとらえさせることができた。

賞賛状は、最初は恥ずかしがりながら賞賛状を受け取っていたが、受け取った後には生徒一人一人から笑みがこぼれていた。このように教師が生徒の努力した過程を認めたり、生徒同士でお互いを認め合ったりすることで、生徒一人一人が自己有用感を味わうことにつながった。

II 今後の課題

人権感覚は、学校で行われる教育活動全体を通して高められるものであるという認識を教師や生徒の中でより一層高めることが重要である。また、校内だけの活動にとどまらず、地域の方々や施設、家庭とも連携して行う活動にも取り組んでいく必要がある。そして、生徒一人一人が人権をより深く広いものとしてとらえられるようにしていきたい。